

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立成妙小学校

I 自己評価書

教育目標		地域を愛し、明るく元気で、しっかり考える成妙の子を育てる							
基本方針		地域の歴史と文化を大切にし、故郷を誇りに思い、社会の変化に対応できる心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指す。							
本年度		1人権・同和教育の推進 2 特別支援教育の充実 3 一人一人を生かす生徒指導 4 健康・安全教育の推進							
重点目標		5 生きる力をはぐくむ教育の推進 6 教師の資質・能力と指導力の向上							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価				
確かに学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ				
		主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C		C			
		ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	C				
	② 授業改善	一人一台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A		B			
		家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		C			
		読書活動の充実	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		C			
(成績と課題)	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A	C				
		○ねらいを明確化することで、学習のゴールが見え、児童の理解が増した。							
		○授業と連動させた自主学習を進めることで、家庭学習の質の向上が見られた。							
		○生活科で身近な地域を再発見したり、総合的な学習の時間で学習したことを自分の生活に生かせるように意識付けた。							
		▲一人の意見に追隨してしまうことがあり、多様な考えを導き出すことができなかった。							
		▲読書への関心が低下していることに対する取組が十分にできなかった。							
生徒指導の充実	(改善策等)		教員が明確なねらいを持ち、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」が連動した授業改善を行う。「振り返り」の内容から、次の学びにつながるキーワードや発言を拾い上げながら、主体的な学びにつなげていきたい。また、全ての児童が自分の考えを表現するために、意見を可視化したり、意見が多様化するような問い合わせをしたりながら、安心して自己表現できる環境を作り、活発で多様な学びへつなげたい。読書活動の充実に向けて、家庭と連携しながら、読書を「楽しいもの」と感じられるような環境と習慣作りができるよう、今、行っている取組の見直しを図りたい。						
	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	C				
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A					
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C					
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A	C				
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C					
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A		B			
(成績と課題)	③ 関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A	B				
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B					
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B					
		自己肯定感等	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C				
			・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C C					
			・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B					
(改善策等)	(改善策等)		自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行なった(自分にはいいところがある)。						
	④ 自己肯定感等		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。						
			・教師アンケート ・児童生徒アンケート						
			・教師アンケート ・児童生徒アンケート						
	(成績と課題)		○互いに励まし合い、助け合おうとする人間関係ができている。						
	○教職員の共通理解のもと、学校になじみにくい児童への対応がスムーズにできている。		○定期的なアンケートを行うことで、児童の心身の状態や人間関係を把握でき、問題を未然に防ぐことができた。						
	▲基本的な生活習慣や学習習慣、人間関係のスキルなどが身に付いていない児童には、具体的な行動を示したり、できた時にほめ、成功体験を積み重ねることにより、意欲的に次の行動に移すことができるよう支援していかたい。児童が頑張っていることはその都度伝え、児童同士でも伝え合う機会を積極的に設けていきたい。								

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価					
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス		時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退勤調査」の分析と活用	C B	C					
			「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C					
	② 働きやすい環境づくり		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C					
			教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B					
	③ 他の教職員のサポート体制の充実		(成果と課題)								
			○優先順位を考えながら業務に取り組むことで、超過勤務の時間を減らすことができている。 ○お互いがよく声を掛け合って、温かく働きやすい雰囲気になっている。 ▲調査やアンケートなどが増え、以前に比べて個々の仕事が増えている。								
			(改善策等)	教職員一人一人の個性を大切にしながら、互いに信頼し合い、尊重し合う関係づくりに努めていきたい。業務改善については、現在の業務を洗い出し、不要な業務を廃止したり簡素化したりしていきたい。慣習的に行われている行事や会議、書類作成などを見直し、本当に必要かを問い合わせていきたい。さらに、職員会議の内容を精選し、児童と向き合う時間の確保を図っていきたい。児童が抱える問題の早期発見や早期対応のために、スクールソーシャルワーカーとの効果的な関わりについての方策を考えていきたい。							
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価					
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化		全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B					
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B A						
		情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	C A A	A					
	③ 来校・相談体制		来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談できやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	C B A	B					
			(成果と課題)								
			○学校運営協議会の方々に、授業を参観していただいた際に温かい声をかけていただき、児童の励みになっている。 ○学校だよりやホームページ、マチコミを通じて、教育活動の様子を発信している。 ▲学校運営協議会の役割や目的について、周知徹底できているといえる自信がない。 ▲学校運営協議会の熟議の結果を学校運営に生かすことができているとは言えない。								
	(改善策等)										
	学校運営協議会の方々には、様々な場面で学校運営に携わり、協力していただいているが、そのことを教職員がはっきりと理解していないことが課題であるため、研修を深めたり、熟議への参加を依頼したりしていきたい。来客・電話対応については、基本的なマナーやスキルを学び、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう研修を行いたい。										

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満